

2017年1月15日(日)

13:00~17:30(開場 12:30)

大阪大学中之島センター10階
佐治敬三メモリアルホール

[総合司会] 中内政貴(大阪大学)

主催:大阪大学大学院国際公共政策研究科稲盛財団寄附講座
「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション」

協力:南山大学社会倫理研究所

入場無料

保護する責任の15年と日本

共有する人道危機に取り組む

「保護する責任」とは the Responsibility to Protect : R2P
従来は国内問題として放置されてきたジェノサイドや民族浄化などの人道危機に対して、当該国の政府が市民を保護しない/できないとき、国際社会も予防・対応・再建を通じて市民を保護する責任を有するという考え方。これは軍事介入を容認する根拠となり得るため、国際的に大きな議論となっている。

13:10~14:00

ビデオ講演 エドワード・ラック(調整中)

(コロンビア大学、元「保護する責任」に関する国連事務総長特別顧問)

14:10~15:00

若手研究者・実務家報告 [司会] 千知岩正継(北九州市立大学)

政所大輔(神戸大学)

牧秀崇(日本国際協力システム(JICS))

中村長史(東京大学)

15:10~17:10

パネルディスカッション [司会] 星野俊也(大阪大学)

長有紀枝(立教大学)

吉崎知典(防衛研究所)

東大作(上智大学)

17:10~17:25

『資料で読み解く「保護する責任」』の紹介

大庭弘継(京都大学)

保護する責任の15年と

共有する
人道危機
の取り組み

2001年12月に「保護する責任」が提言されてから15年が過ぎた。
この間、国際社会では議論が吹き荒れたが、
日本では、人道危機も難民問題もまして人道的介入も、
「遠い世界の出来事」であり、決して多くは語られてこなかった。
だがその一方で、間違いなく、この世界の人道危機は我々共有の危機である。
実際、様々な立場から、この危機と向き合ってきた日本人も存在する。
本シンポジウムでは、「保護する責任」概念の発展に大きく貢献した、
E・ラック元「保護する責任」担当国連事務総長特別顧問による発題を出発点として、
日本の研究者・実務家との議論を通して、
日本も共有する危機への取り組みについて考える。

2017年1月15日(日) 13:00~17:30 **入場無料**
大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール



電車によるアクセス

- 京阪中之島線 中之島駅より 徒歩約5分
- 阪神本線 福島駅より 徒歩約9分
- JR東西線 新福島駅より 徒歩約9分
- JR環状線 福島駅より 徒歩約12分
- 地下鉄四つ橋線 肥後橋駅より 徒歩約10分

●タクシーでお越しの際は、近隣施設や建物に中之島センタービル等類似した名称の建物がございまして、「大阪市立科学館北側の『大阪大学中之島センター』」とお伝えください。

●より詳しい情報は大阪大学中之島センターHPへ
<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>

TIME SCHEDULE

13:00~13:10 シンポジウム趣旨説明 [総合司会] 中内政實 (大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授)

13:10~14:00 ビデオ講演(調整中) エドワード・ラック (コロンビア大学公共政策大学院(SIPA)教授、元「保護する責任」に関する国連事務総長特別顧問)

14:10~15:00 若手研究者・実務家報告 [司会] 千知岩正継 (北九州市立大学)

「保護する責任の実施と人間の安全保障」

政所大輔 (神戸大学大学院法学研究科助教)

Bringing Human Security Back into the Responsibility to Protect

「保護する責任原則の実務面での使われ方—改訂試論と『国際介入法』への昇華にむけて」

牧秀崇 (日本国際協カシステム(JICS)パキスタン・プロジェクト事務所)

How the principle of the Responsibility to Protect has been utilized at state/non-state practice?

「出口戦略の時代における保護する責任」

中村長史 (東京大学大学総合教育研究センター特任研究員)

Arguing about the Responsibility to Protect from the Perspective of Exit Strategy

15:10~17:10 パネルディスカッション [司会] 星野俊也 (大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)

長有紀枝 (立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・社会学部教授)

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・社会学部教授。NPO法人難民を助ける会理事長。東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム博士課程修了。主な著作に、『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』(東信堂2009年)、『入門 人間の安全保障』(中公新書2012年)など。

吉崎知典 (防衛研究所特別研究員)

防衛省防衛研究所にて主任研究員、室長、理論研究部長などを経て2015年より現職。この間ロンドン大学キングズカレッジ防衛研究学部客員研究員、ハドソン研究所国際安全保障研究部客員研究員などを歴任。現在、東京外国語大学大学院の平和構築・紛争予防専攻コース、政策研究大学院大学(GRIPS)と共同の修士課程戦略研究プログラム等を担当。共著・共編書に『世界に向かったオールジャパン-平和構築・人道支援・災害救援の新しい形』(内外出版)、『平和構築における治安部門改革』(国際書院)など。

東大作 (上智大学グローバル教育センター准教授)

NHK報道局ディレクターとしてNHKスペシャル「我々はなぜ戦争をしたのか〜ベトナム戦争・敵との対話」(放送文化基金賞)、「イラク復興 国連の苦闘」(世界国連記者協会銀賞)等を制作。2009-2010年国連アフガニスタン支援ミッション勤務。2011-2012及び2014-2016年、東京大学准教授、2012-2014年、国連日本政府代表部公使参事官。2016年4月より現職。主な著書に『Challenges of Constructing Legitimacy in Peacebuilding: Afghanistan, Iraq, Sierra Leone, and East Timor (Routledge 2015)』、『平和構築-アフガン・東チモールの現場から』(岩波新書 2009年)等。

17:10~17:25 『資料で読み解く「保護する責任」』の紹介 大庭弘継 (京都大学文学研究科研究員)

17:25~17:30 閉会挨拶 星野俊也 (大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

お問合せ先: 大阪大学大学院国際公共政策研究科 中内
E-mail nakauchi@osipp.osaka-u.ac.jp